

## インターバンクの声（2017年5月17日）

前日、予想外に低下したNY製造業景況指数の発表に続き、昨日も4月の米住宅関連指標が市場予想を下回り、いよいよ米景気の先行きが怪しくなり始めている。住宅着工件数や許可件数の発表から少し時間を置いて発表された4月の米鉱工業生産が堅調だったことで一旦はドル売りにブレーキが掛ったようにも見えたが、トランプ米大統領のロシアへの機密情報提供の続報や、大統領側近辞任の噂などが伝わり、対円でのドル売りは113円割れまで進んだ。

対ユーロでのドル売りも東京市場の夕方頃から活発化し始めていたが、ニューヨーク勢が参入する頃には昨年11月初旬以来となる1.10ドル台後半までドル安が進んだ。

FBI長官の更迭に続き、同盟国から得た機密情報をロシアのラブロフ外相に漏えいしたのではとの疑惑も重なったとあって、トランプ政権の議会運営はますます難しくなって来た。最近の米大統領の中で史上最低の支持率となっているトランプ大統領だが、当選直後から言われてきた弾劾の可能性がいよいよ高まってきたことも考慮しながら相場に向き合う必要があるようだ。

---

提供：SBIリクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。